

日本国際連合学会（JAUNS）

ニュースレター

2025 年度 1 号

- JAUNS は、日本国際連合学会の英文名称、Japan Association for United Nations Studies の略です。
- このニュースレターには学会の活動や会員の皆様へのお知らせを記載いたします。
- 学会へのご意見、ご質問などは事務局までお寄せください。

ハイライト

- 2025 年度第 1 回理事会で託児費用助成金が承認されました。
- 定例総会において、第 10 期の新体制に向けた学会規約の改正案は否決されました。
- 次期理事・監事選出は候補案への意見聴取後にメール審議の総会で行う予定です。
- 昨年 9 月に福岡で開かれた第 23 回東アジア国連システムセミナーの詳細が報告されました。
- 国連学会 HP に学会員の著作リストの並べ替え・検索機能が加わりました。
- 8 月 7 日理事会終了後の会員数は、289 名です。
- 功刀達朗会員が、2025 年 3 月にご逝去されました。

1. 2025 年度第 1 回理事会（2025 年 5 月 3 日開催）の報告

2025 年 5 月 3 日（土）に Zoom にて、2025 年度第 1 回理事会が開催されました。2025 年度研究大会準備状況、若手旅費助成（研究大会）の申請状況、『国連研究』第 26 号の編集状況、ACUNS 無料会員の公募結果等についての報告が行われました。審議事項として、研究大会における託児費用助成や入退会の承認が行われました。

2. 2025 年度第 2 回理事会（2025 年 6 月 7 日開催）の報告

2025 年 6 月 7 日（土）午前、明治学院大学において 2025 年度第 2 回理事会が開催されました。2024 年度の活動報告、2025 年度研究大会、『国連研究』第 26 号の刊行状況の報告が行われました。審議事項として、2024 年度決算案及び 2025 年度予算案の審議が行われ、総会に諮ることとなりました。そのほか 2026 年度研究大会、『国連研究』第 27 号の原稿募集、入退会の承認などの議題のほか、第 10 期理事・監事候補案の審議が行われ、第 10 期理事・監事候補案は総会に諮ることとなりました。

3. 2025 年度定例総会（2025 年 6 月 7 日開催）の報告

2025 年 6 月 7 日（土）午後から明治学院大学にて開催された 2025 年度研究大会初日の夕方に定例総会が開催されました。2024 年度活動報告及び 2025 年度活動計画の報告、新入会員及び退会会員の報

告、研究大会及び学会誌『国連研究』の編集状況、東アジア国連システム・セミナー、広報関係の報告が行われた後、審議事項として 2024 年度決算案と 2025 年度予算案が承認されました。第 10 期の新体制に向けた学会規約の改正案は否決されましたので、当初審議予定であった第 10 期理事・監事候補案の議決には至りませんでした。

4. 2025 年度第 3 回理事会（2025 年 8 月 7 日開催）の報告

2025 年 8 月 7 日（木）に Zoom にて 2025 年度第 3 回理事会が開催されました。6 月の定例総会で学会規約改正案が否決されたため、現行規約に基づいて第 10 期理事・監事候補案の審議が行われました。第 10 期理事・監事候補案の選出にあたっては、会員への意見聴取期間を設けた後にメール審議を行う方向で準備しており、第 10 期の新体制への移行準備を進めてまいります。

5. 2025 年度研究大会（2025 年 6 月 7・8 日開催）の報告

日本国際連合学会は、2025 年 6 月 7 日（土）および 8 日（日）に、明治学院大学白金キャンパス本館におきまして、第 26 回研究大会を開催いたしました。本年度の共通テーマは「国際社会の分断と国連：人権・開発・人間の安全保障の課題」でありました。2 日間にわたりおおよそ 75 名が来場し、国連の最先端の実践や研究の成果を共有しました。基調講演、研究報告セッション 1（国際社会における人権保護の挑戦と国連の役割）、研究報告セッション 2（SDGs の加速化と人間の安全保障）を通じまして、現在の多国間主義が後退している世界におきまして、人権、開発、人間の安全保障に関する国連の役割について多角的な観点から議論しました。また、特別報告セッション（国連研究と東アジアの過去、現在、未来）では、日本国際連合学会が編者となり、韓国国連システム学術評議会、中国国連研究アカデミックネットと連携して出版した編著 Evolution of the United Nations System の執筆陣が登壇しました。さらに、新進気鋭の若手研究者が自らの研究成果を発表しました。懇親会でも、30 名以上の会員が懇談し、会員の近況や今後の国際社会の行く末まで気軽に話し合いました。今後も、日本国際連合学会は、国連の機能と役割を積極的に推進するために研究を推進し、社会に発信して参ります。

6. 第 23 回東アジア国連システムセミナー（2024 年 9 月 27-29 日開催）の報告

第 23 回東アジア国際連合システム・セミナーは、2024 年 9 月 27 日から 29 日の 3 日間の日程で、福岡市博多区のホテルクリオコート博多、および福岡工業大学[FIT ホール]を会場として行われました。

第 23 回セミナーは、「21 世紀の国連システムに対する新たな課題とアプローチ―日中韓の国連活動への関与の歴史的視点から」、というメインテーマを掲げて、4 つのセッションと 1 つの特別パネルセッションを開催しました。

1 日目は、開発援助の現場にも詳しい外交官で、レバノン大使などを歴任された大久保武氏に基調講演を行って頂きました。近年のイスラエル・パレスチナの紛争における市民の惨禍について言及されたほか、国際社会、国際連合として何ができるか、国際協力の意味や外交の可能性を考える上で、非常に感銘深い講演でした。基調講演の後は、会場ホテルにて歓迎の懇親会を開催し、参加者の交流を深め、2 日目

以降のセッションへの期待を語りあいました。

2 日目は、会場を福岡工業大学に移して、①教育、②国連とビジネス、③SDGs に向けたファイナンス、の 3 つのセッションを行いました。これらのセッションでは、通例のごとく、日中韓からそれぞれ 1 名が報告を行い、これに討論者からコメントを寄せ、それを踏まえて、フロアを含めて質疑応答を行いました。2 日目のセッション終了後、バスで博多駅近くの懇親会会場に移動し、福岡名産の玄界灘の水産物を堪能しながら、報告者の労を労いつつ、楽しい歓談を行いました。

3 日目は、④環境、に関するセッションと、⑤特別パネル「持続可能な消費と生産」を行いました。特別パネルは、通常の報告形式とは異なり、日中韓のゲストに冒頭で問題提起のような形で話題を提供してもらい、それを元にパネリスト間で議論を交錯させながら、テーマについての共通理解を高める形で実施しました。今回、日本側では、招聘ゲストとして、菅生零王氏（株式会社ステージバンク代表取締役）をお迎えし、アフリカのファッションをメインとする活動と現地の関わりなどを中心に、自らの経験を踏まえて、国境を越えた持続可能な消費と生産についての貴重な問題提起がなされました。本パネルを通して、国連の目標、各国政府の取り組み、民間を含む主体の参加の重要性を改めて認識することができました。全セッション終了後には、会場でフェラエルパーティーを兼ねた昼食会を行い、3 日間の活動を振り返りながら、今後の日中韓国連研究者の交流拡大について意見を交わしました。

コロナ禍明けであり、昨年の韓国におけるセミナーに引き続き、対面形式のセミナーとなりましたが、やはり直接顔を合わせることで報告、議論とも応答性に富んだ雰囲気になったのではないかと思います。今後の日中韓の外交関係には、不確実な要素も多いですが、次年度も以降も対面方式のセミナーによる研究者交流を期待したいと思います。

Dong Ju Choi 会長をはじめとする KACUNS の参加者、FENG Fei 先生を代表とする UNA China 参加者に感謝申し上げます。また、最後になりましたが、本セミナーの開催にあたりまして、東京倶楽部より交流助成を受けましたこと記して感謝申し上げます

7. 渉外委員会からのお知らせ：第 24 回国連東アジアセミナー（2025 年 11 月 27-29 日開催予定）

第 24 回日中韓東アジア国連システムセミナーは、中国の主催で 2025 年 11 月 27-29 日に開催される予定です。9 月 30 日（火）締め切りで登壇者（報告者及び討論者）の募集を行っていますので、奮ってご応募ください。詳細はメーリングリストの配信をご覧ください。

8. 企画委員会からのお知らせ

とくにありません。

9. 編集委員会からのお知らせ

現在、『国連研究』第 27 号（特集テーマ「国際社会の分断と国連：人権・開発・人間の安全保障の課題」（仮）、2026 年 6 月刊行予定）の刊行へ向けたプロセスが進行中です。

10. 広報委員会からのお知らせ

先日の通常総会でご報告したように、広報委員会は、会員の皆様への学会活動の連絡・報告、会員の皆様の交流、学会活動の对外発信を目的として、ホームページの運営とニューズレターの発行を行っています。すでに ML でご案内のように、会員の皆様の著書をリスト化し、検索と並べ替えが可能な形式でホームページに掲載しました (<https://www.jauns.net/writing>)。2025 年 5 月現在で、217 冊が記載されています。将来的には、論文も加えていく予定です。リストは、タイトル名や著者名などで並べ替えることができます。掲載書の「種別」として、著書、書評、国連研究の 3 つに分類してあります。デフォルトは、すべてが検索対象になるように ☐ にチェックが入っていますが、チェックを外すと検索から除外できます。また、キーワードで検索し、絞り込むことができます。国連学会会員の方で、新たにご自身の新著をリストに加えたい場合は、タイトル、著者、出版年、出版社を事務局 (jauns2013@gmail.com) まで、送ってください。掲載には、2 週間程度かかります。

今後もホームページにフォトギャラリーを創設し、会員の皆様が会議に参加したときの写真などを掲載していきたいと考えておりますので、お気軽に写真と簡単な説明書き (100 字程度) を送ってください。また、広報委員は人数が限られておりますので、お手伝いして下さる方を随時募集しています。

11. 入会と退会の承認

2025 年 5 月 3 日開催の 2025 年度第 1 回理事会において、新入会員として下記の 2 名、退会 2 名が承認されました。

(新入会員 敬称略)

尾立 素子、山邊 美嗣

2025 年 6 月 7 日開催の 2025 年度第 2 回理事会において、新入会員として下記の 2 名、退会 2 名が承認されました。

(新入会員 敬称略)

松尾 敬子、坂根 宏治

2025 年 8 月 7 日開催の 2025 年度第 3 回理事会において、新入会員として下記の 2 名、退会 2 名が承認されました。8 月 7 日理事会終了後の会員数は、289 名となります。

(新入会員 敬称略)

福原 優策、小林 葉子

第 9 期理事をはじめとして本学会の要職を歴任され、学会の発展にご尽力くださった功刀達朗会員が、2025 年 3 月にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。なお、下記の ICU 同窓会のページにて訃報が掲載されていますので、会員の皆さまにもお知らせいたします。

<https://www.icualumni.com/news/18849>

12. 会費納入のお願い

会費未納会員への対応について

2021 年 6 月 18 日の理事会において、2 年以上会費をお納めいただいていない会員について、次のように対応することを決定しました。

- メールアドレス・住所が不通で宛先が不明の会員

会員資格を停止し、復帰の申し出があった場合には、会費納入を条件に復帰を認めます。

- 宛先は有効で会費未納の期間が 2 年以上の会員

1 か月の猶予をもって再度請求し、支払がない場合には上記宛先不明者と同様の扱いとします。

会費長期未納者への『国連研究』の送付について

2023 年 6 月 10 日の理事会において、会費の長期未納者に対する『国連研究』の送付方針が次の通り承認され、翌 11 日の総会においても報告されました。2022 年度までは会費の長期未納者であっても『国連研究』を毎年発送していましたが、2023 年度から長期未納者に対しては送付を保留し、メールアドレスや住所の確認、及び未納分の会費請求を通じて、年会費の支払いが確認できた年度について当該年度の『国連研究』を発送することになりました。もし年会費を納入したにもかかわらず、『国連研究』が届いていない会員の方は、事務局までご連絡ください。毎年継続的に会費をお支払いいただいている会員の皆様には、従来通り『国連研究』を研究大会の開催時期に合わせて発送しています。

13. 事務局からのお知らせ

2017 年度よりメーリングリストを立ち上げ、学会からの情報提供を随時行っております。ニューズレターにつきましても、PDF 版をメーリングリストにて配信するほか、学会ホームページからも過去のニューズレターを含めてご覧いただけます。メーリングリストへの登録メールアドレス及び連絡先に変更のある方は、事務局までお知らせください。また、住所や所属先等に変更のある方は、学会事務局まで随時ご連絡ください。会員登録情報アンケートは、下記の学会ウェブサイトから入手し、ご記入のうえ送付をお願いいたします。

<https://jauns.net/contact#03>

第 9 期学会執行部体制としては最後のニューズレターの配信になります。第 10 期は事務局をはじめ各種委員会も新体制に移行しますが、事務局宛てメールアドレスに届いた内容については、業務移行が完了するまでの間は第 9 期事務局が対応する場合がありますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

14. コラム「国連よもやま話」(2)

ニューズレターを親しみやすいものにするため、会員からの投稿の載せるコラムを始めました。第 2 回

は、編集主任の井上が書きました。会員の皆様で何か投稿したい方がいらっしゃれば、気軽に広報主任の井上健（camelworld☆aol.com, ☆は@に変えてください）までお送りください。長さは 400 字まで、国連に関する内容で、署名入りの原稿をお願いします。

猛暑の中、関西・大阪万博に行ってきました。ご承知のように、EXPO2025 は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158 の国と地域が参加し、国際機関や日本企業もパビリオンを出しています。日本館やアメリカ館などの人気館は、長い行列ができていましたが、多くの途上国はコモンズという共同パビリオンにブースを開いていました。日本にいながら世界各国を訪れている感じで楽しかったです。国連館は、「United for a Better Future: 人類は団結したとき最も強くなる。」をテーマに 35 の国連機関がまとまって入っていて、イマーシブ・シアターという没入型映像は見ごたえがありました。最近は海外に関心を持たない日本人が増えているようですが、万博では初めて名前を聞く国もたくさんあるようで、国際社会への関心を向けるきっかけになっていると感じました。（井上健）

〒760-8523 香川県高松市幸町 2-1

香川大学法学部 山本慎一研究室内

日本国際連合学会事務局

E-mail: jauns2013@gmail.com

日本国際連合学会（JAUNS）ニューズレター 2025 年度 1 号：2025 年 9 月発行

広報委員会（広報主任：井上健 広報委員：平井華代、服部正喜）